

JACK LANG

元フランス文化大臣
ジャック・ラング氏
大林賞受賞記念講演 & シンポジウム
「今、世界の文化政策に求められるもの」

2018年
12月14日(金)
14:00 - 16:00 (30分前開場)

東京藝術大学 COI 拠点
Arts & Science LAB 4F 球形ホール
〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

入場無料

主催

東京藝術大学 COI 拠点文化外交・アートビジネスグループ
公益財団法人 大林財団

協力

駐日フランス大使館

登壇者 (五十音順)

ジャック・ラング氏 (アラブ世界研究所 (IMA) 理事長)

青柳正規 (前文化庁長官、東京藝術大学特任教授)

伊東順二 (コーディネーター、東京藝術大学特任教授)

隈研吾 (建築家、東京芸術大学客員教授)

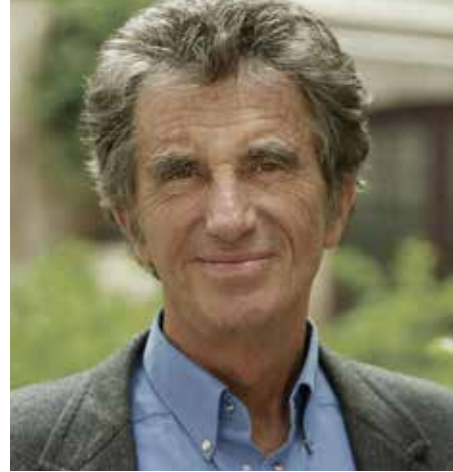
千住明 (作曲家、東京藝術大学特任教授)

舘鼻則孝 (アーティスト)

宮廻正明 (東京藝術大学名誉教授)



ジャック・ラング氏 大林賞受賞記念講演 & シンポジウム 「今、世界の文化政策に求められるもの」



ジャック・ラング Jack LANG

1939年フランス生まれ。パリ大学法学部及びパリ政治学院卒業。24歳で教授資格者となる。法学博士。1963年ナンシー国際演劇祭の前身であるナンシー演劇祭を創立し、実行委員長を務める。1981年フランソワ・ミッテラン大統領が誕生すると文化大臣に抜擢され、1986年まで務める。1986年社会党から初出馬して国民議会議員に当選。1988年ミッテラン再選にともない文化大臣に再任。1995年のシラク政権誕生で閣僚を退くまでに、革命200年担当大臣、情報担当大臣、国民教育大臣などを兼務。1994年欧州議会議員に転出するが、1997年ふたたび国民議会議員に当選。1989～2000年プロウ市長を兼務し、その後パド＝カレー県の国民議会議員を務める。2013年オランド大統領よりアラブ世界研究所（IMA）理事長に任命される。

都市改造と地方創生のパイオニア ジャック・ラング氏に聞く

今年度、大林賞の記念すべき第10回の受賞者にフランスの都市と文化の革新に大きく貢献するとともにその指針となる政策およびモデルを確立され、さらに文化の地方分権、パリのルーブル美術館を起点とする文化施設を中心としたグラン・トラボー事業の総指揮も取られたジャック・ラング氏が選ばれたことは都市と文化をテーマとするこの賞の指針をより明確にすることでしよう。また現在も多彩な分野で活躍中のジャック・ラング氏の活動をこの機会を機に見つめ直す事はようやく注目されてきた日本のまちづくりや現代文化形成、また今最も注目される分野である地方創生に関わる人々にとっても大変意義深いことであります。

ナンシー大学の学生の頃すでにのちに国際的な広がりを見せるナンシー演劇祭を創出され、その流れの中で世界の先端的な演劇を紹介。日本の寺山修司氏や鈴木忠志氏の作品を始めその後の演劇の前衛的ストリームの促進および多様性の拡張に大きな貢献をされるだけでなく、当時文化における大都市中央集権が強かった時代に地方からの文化発信に先鞭をつけられたことは今でも続く文化発信の新しい姿を創始されたと言っても過言ではありません。

その後、ミッテラン政権が文化省を復活した折、その指揮官として文化大臣に就任し、19世紀にパリ大改造を行ったジョルジュ・オスマン以来とも言われるパリ大改造「ル・グラン・トラボー」でパリの都市文化を一新するとともに文化の地方分権を指揮し、地方文化の発信を促進させるとともに文化の地域経済貢献という視点を明確にされました。その背景には芸術の分野超越、実験的な事業の保護、大衆と芸術の接点の回復などの一貫した意図があったと思われます。

特筆すべきは、国際法の専門家でもありパリ政治学院でも学んだラング氏の事業は常に政策的な構築性をともなっており、それがフランスの現代文化政策にとって一貫した活動の軸を与えたと言っても過言ではないことでしよう。その結果、フランスの文化予算は在任中国国家予算総額の1%を超えたばかりだけでなく、今でいう地方創生を可能とする地方への文化予算移譲を政策として立案されました。

現在、日本でも地方文化の再活性化を基軸とする地方創生への期待が膨らんでおります。また同時に国のGDP向上における文化経済の貢献力が注目されています。そのような状況の中もともと文化的に影響力の高いフランスという国を舞台にその時代に合わせた革新と法制の刷新、首都および地方都市を結んだ拠点の体系的組織化という前人未だに業績を残され、今なおその活動を国際的に精力的に持続されているジャック・ラング氏に都市と文化をテーマに新しい時代を見据えた文化政策の重要性を問い、参加メンバーとディスカッションを行うことは今後の日本文化に必ずや大きな問題提起になることと信じています。

(コーディネーター 伊東順二)

2018年
12月14日(金)

14:00 - 14:05

来賓挨拶

14:10 - 14:25

藝大生によるコンサート

14:30 - 15:00

ジャック・ラング氏受賞記念講演

15:00 - 16:00

パネル・ディスカッション



青柳 正規

Masanori
AOYAGI

1944年大連生まれ。国立西洋美術館館長、文化庁長官などを務める。現在、

東京藝術大学特任教授、山梨県立美術館長、東京大学名誉教授、日本学士院会員、株式会社IKI取締役CSO。著書「皇帝たちの都ローム」、「ローマ帝国」、「文化立国論」など。



千住 明

Akira
SENJU

1960年東京生まれ。東京藝術大学作曲科卒業、同大学院修了。代表作にピ

アノ協奏曲「宿命」（ドラマ「砂の器」劇中テーマ曲）、オペラ「万葉集」「滝の白糸」、「カレンダー組曲」等。ドラマ「風林火山」映画「追憶」アニメ「Vガンダム」等多くの映像音楽も担当。受賞歴多数。東京藝術大学特任教授。



コーディネーター
伊東 順二

Junji
ITO

東京藝術大学特任教授。美術評論家。アート、音楽、建築、都市計画など分野

を超えたプロデュースを多数手がける。1995年「ベニス・ビエンナーレ」日本館コミッショナー。2005年～13年富山大学教授。08年～12年「金屋町楽市」実行委員長。前長崎県美術館館長。パリ日本文化会館運営審議委員。富山市ガラス美術館名誉館長。



舘鼻 則孝

Noritaka
TATEHANA

1985年東京生まれ。東京藝術大学では絵画や彫刻を学び、

後年は染織を専攻。遊女に関する文化研究とともに日本の古典的な染色技法である友禅染を用いた着物や下駄の制作をする。代表作であるヒールレスシューズは花魁の下駄から着想を得た。作品は世界の著名な美術館に永久収蔵されている。



隈 研吾

Kengo
KUMA

建築家・東京大学教授。近作に浅草文化観光センター、プザン

ソン芸術文化センター、FRAC マルセイユ等があり、国内外で多数のプロジェクトが進行中。著書に「小さな建築」（岩波書店）、「僕の場所」（大和書房）等。東京藝術大学客員教授。



宮廻 正明

Masaaki
MIYASAKO

1951年島根県生まれ。日本画家、東京藝術大学名誉教授、日本美術院同

人・業務執行理事、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団理事長、株式会社IKI代表取締役社長。日本美術院展（外務大臣賞、文部大臣賞、内閣総理大臣賞）

お問い合わせ

TEL 050-5525-2403
(東京藝術大学 担当：前久保)

主催

東京藝術大学 COI 拠点文化外交・アートビジネスグループ
公益財団法人 大林財団

協力

駐日フランス大使館